

人もありましてね、その中に、天草出身のお相撲さんで立浪部屋の荒浪という人がいたんですよ。この人が、どうせ入門するならば栃錦のいる春日野部屋に行け、栃錦は身体は小さいが、やがて大関、横綱になる男だと言っていました。当時は関脇だったように思います。

僕は春日野部屋は栃錦の部屋だと思っ
ていたんです。行ってみると違わぬです
ね。後から分ったことなんです。先代
の親方、元栃山なんです。その時僕
は、この人は栃錦のお父さんなんだなあ
と思ったのを覚えてますよ。(笑)

相撲界は飯が食えていいところ

僕が入門した時は、丁度場所が始まる
十日程前でね、けいこが激しい時でし
た。朝四時半に起床、まわしをきめてけ
いこをやるんです。我々新弟子のけい
こが終わるのには、そう時間はかからな
いんですが、兄弟子たちのけいこが終わ
るのが十一時半頃です。それから、上か
ら順に風呂に入り、食事になるわけが
が、僕たちは関取衆から二、三場所早く
入門した兄弟子に至るまでお給仕をし
ますので、自分たちが食事にありつく頃
には、もう三時すぎになっているんです。
起床後なんにも食べていないわけが
ら、腹の減り方は大変なものです。ド
ンブリ飯七、八杯は食べていましたね。

僕が入門した時は、丁度場所が始まる
十日程前でね、けいこが激しい時でし
た。朝四時半に起床、まわしをきめてけ
いこをやるんです。我々新弟子のけい
こが終わるのには、そう時間はかからな
いんですが、兄弟子たちのけいこが終わ
るのが十一時半頃です。それから、上か
ら順に風呂に入り、食事になるわけが
が、僕たちは関取衆から二、三場所早く
入門した兄弟子に至るまでお給仕をし
ますので、自分たちが食事にありつく頃
には、もう三時すぎになっているんです。
起床後なんにも食べていないわけが
ら、腹の減り方は大変なものです。ド
ンブリ飯七、八杯は食べていましたね。

親方が言うには、「お前は、田舎にい
て百姓をやっているも、せいぜい出世し
たところで村長さんだ、相撲とりになっ
て頑張る幕内にも入って、日本
に何人もいないぞ」と言うんです。入門
時、一メートル七十三センチ、八十キロ
ぐらいでね、他の者に比べて決して大き
い方じゃなかったんですけど、筋肉質で力
が強かったですよ。親方は僕の身体を見
て「死ぬ気でけいこに励め——きつと十
両、幕内に上がれるぞ」と言ってくれま
した。僕はそれを真に受けましてね、一
生けん命やりましたよ。

ところが、夕食は六時頃なんです。昼食
後、間がないものですから食べられない
んですよ。食事内容はよかったです、新
弟子といえどもどれだけでも食べられま
す。こないだいい処はないというのが、僕
の最初の印象でしたね。家にいた時にお
ヒツの半分以上僕が食べてたものではな
ら、「こら、あんまり食べるな」となん
て怒られてましたからね。(笑)

けいこの虫

こないだいい処はないという気持ちは最
後まで変わりませんでした、けいこが
らいといつて脱走する者もいましたけど

が難しくなってきましたね。

けいこが十分に出来ていけば場所では
自信があります。大相撲になっても、俺
の方がけいこ量が多いんだ、相手の息が
あがるのが早いんだと自分に言い聞かせ
るんです。根負けしたらいけませんね、
押し合いながら、手足を動かしながら気
持ちは「根負けしちゃいかん根負けしち
ゃいかん」ということで一杯です。相撲
は、特に押し合いは根気強い者が、まず
勝ちですね。

自分の相撲をとる

ここ一番という相撲には僕も固くなっ
て前の晩寝れないことがありました。相
手の取口を考え、こちらの出方を決める
んです。でも、考えれば考える程分らな
くなりません。結局最後に考えつくことは
自分は自分の相撲をとるんだということ
になるんです。

飛ばれても、逃げられてもいい、俺は
自分の相撲をとるんだと、そんなふう
に悟ったのは大関になった頃からですよ。

栃光は「まった」をしないと聞かれま
した。これはまったをすれば自分が不利
になるからしなかっただけですよ。なぜ
なら、次には少々不利でも立たねばなら
んでしょう。そういうふうな精神的に追
い込まれて立つのが嫌だったんです。そ
れにね、あいつはまったをしないなんて

ね、僕はけいこが好きだったんですよ、土
俵があいてさえば、一日中けいこし
てもいいという気持ちでした。田舎に
いた時の仕事の方がよっぽどつらかった
です、炭鉱に使う坑木を背中一杯山から
かついで登ったり降りたりしてしまし
た。相撲のけいこなんて、そんなにきつ
いものとは思わなかったですよ。

スピード出世

最初の場所、三番前相撲をとりまし
た。成績は二勝一敗で、敗けた一敗が
「黒い弾丸」といわれた房錦です。土俵
に上ってみると、身体は大きくありませ
ん、こんなの一突きだノと思つて突いて
出ていったら、土俵ぎわでくるつとまわ
られましてね、後から腰に食いつかれて
やられました。初黒星は覚えてるも
んです。昭和二十九年五月一日の番付発
表で十両になりました。入門した日と十
両発表の日が同じなものですから記憶し
ているんです。その場所は六日目まで二
勝四敗、「こりや、だめだ」と正直思
いましたね、ところが先代の親方から、
「十両ぐらいで萎縮して相撲をとって
どうするんだ、まだ上をみてやれ」と
いを入れられましたね、その場所はその
気合後八連勝しました。

三十二年小結になってから、シンマン
ンに悩まされました。これも言ってみ
れば自分の不注意、不摂生からきたもの
なんです。前の晩飲みすぎましてね。そ
れでもけいこは当たり前にやり、今日は早
く食事をとって休もうと思つて食べたの
が、はん煮えの豚肉だったんです。豚肉
は怖いんですよ。翌日、シンマンンが身
に桜の花が咲いたようにでてきました。
かゆいんですよ、それに寒けがしますし
眠れません、食事の制限もなくなっては
いません、こうなつてはもう力はませ
ん。三年間はやられましたね。おまけ
にホルモン剤の内服で内臓まで悪くしま
した。三十七年大関になりましたが、あ
の時には柏戸、大鵬はもう横綱になつて
いましたね、大関には琴ヶ浜、北葉山、
佐田の山がいました。僕はもう二十九歳

言われたしますとね、もう、待ったはで
きません。(笑)

以前、元巨人軍の川上さんにお会いし
て話をしたんですが、あの方もボックス
をはずさなかつたそうなんです。一旦ボッ
クスに入ったら、あるいは土俵に上つた
ら……、という共通点は以外と肥後モツ
コスに行きつくところがあるのかも知れ
ません。(笑)

若手に期待する

今、弱い大関がファンの非難的にな
っています、残念なことですね。先頃
まで横綱の輪島と北の湖が優賞を分け合
ってきたんですが、このところ輪島が不
調で北の湖も今ひとつパツとしませんで
した。その間に上位力士が勝星を稼ぎ
ました。そうなるとう協会の内規というも
のがありますし、大関にしなければとい
うことにもなります。ファンもまたそれ
を望むという傾向もあります。このあた
りに大関が期待にそむいている原因があ
るように思いますね。

次に大関を狙う人たちといつてもこれ
といつていませんね。若三杉やうちの部
屋の金城など有望力士に違いないんです
が、今一步の感があります。素質は十分
にあるんですからけいこを積んで強くな
ってほしいですね。もし北の湖独走
というふうなこともなれば相撲人気

勝優勝、次の場所入幕しました。初土俵
いらい十四場所のスピード入幕というこ
とで、当時、記録だったらしいですね。
翌場所十勝し、その次の場所二枚目に
上ったんですが、この場所七勝五敗か
ら、もうひとつがなかなか勝てなくて
ね、とうとう三連敗しました。初めての
負け越しです。

病を克服

大関昇進

に悪影響を及ぼすんじゃないかと心配し
ています。若手の奮起を期待したいです
ね。

肥後ツ子よ来れ

福の花が引退して熊本相撲界が淋し
くなりましてね、吉玉山は僕が引退する
頃幕下におりましたね、部屋は違いますが
がよく胸を貸しましたよ。当時将来を囁
望されてましてね、貴の花なんかとの
ぎを削っていた頃でした。横綱・大関間
違いないと思つていた人ですがね、糖尿
病に負けました、北の湖に対抗できた逸
材だったんですが……。

僕は四十一年に引退したんですが、早
いもんです、十年になりますよ。郷里
には年一度ぐらい帰っていますけど、東
京におりましたも熊本の人たちとは県人
会などでよくお会いします。

これはお願いですけどね、いい身体と
根性ある若者がいたら相撲界に送って下
さいよ。今はもうけいこで半殺しにされ
る、ろくに飯も食えないということは全
くありません。お客さん待遇ですよ。こ
こで努まらん者はどこに行っても努ま
りません。僕たちが新弟子の頃には、勝星
で小遣が決まっていたからね。負け
ると小遣なしだったんですが、今は協会
から支給されます。やる気のある若者
たれノといいたいですね。

根負け

しちやいかん

今と昔とけいこの量がよく言われ
るんですが、昔の方が多かったというこ
とは一概には言えません。今の相撲と
りも一生けん命にやっていますよ。どの世
界でも「昔は今みたいじゃなかった」と
いうようなことをよく言いますよ。た
だ昔と違うことは場所後、巡業数が多
なつてきたということですね。五、六時
間汽車にゆられて、翌朝は早くから興業
という無理な巡業もあります。力士の
コンディションの調整、健康管理というこ

飛はれても、逃げられてもいい、俺は
自分の相撲をとるんだと、そんなふう
に悟ったのは大関になった頃からですよ。